

～地域の観光拠点としての水族館～

令和5年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：「久慈地下水族科学館（通称「もぐらんぴあ」）の魅力化促進及び誘客策の展開
～三陸沿岸道路全線開通及び久慈広域道の駅との相乗効果を目指して～」

研究代表者：総合政策学部 三好純矢

課題提案者：有限会社あくあぷらんつ

研究メンバー：円舘広世志（久慈市）

技術キーワード：サービス体験、相互作用、交流人口拡大

▼研究の概要（背景・目標）

R4年度地域協働研究（ステージⅠ）では、定量分析を中心に来館者のニーズを具体化した。本研究では、特に、ロイヤルカスタマーともいえる頻繁にもぐらんぴあ水族館を訪れる来館者の愛着やエンゲージメントの要因について明確にすることで、誘客策をブラッシュアップして実践する。

▼研究の内容（方法・経過）

- ①「来館者へのインタビュー調査による定性分析を行う」
- ②「分析結果に基づき誘客策をブラッシュアップする」
- ③「周辺観光関連事業者との協力体制を構築し誘客策を実践する」
- ④「誘客策の効果を検証する」

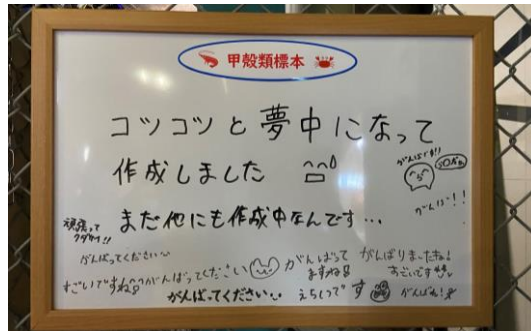
▼研究の成果（結論・考察）

1. 館者の顧客エンゲージメントについて、認知・行動・感情の側面から整理をした。
2. 企画展などでブラッシュアップした誘客策を実施した。
3. 道の駅いわて北三陸のトンネル通路を装飾し、来訪者のもぐらんぴあへの回遊を促進した。
4. 来館者アンケートを作成し、誘客策の効果を検証している。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. もぐらんぴあでの価値の創造・認識のプロセスを具体化した。その結果から、企画展などで誘客策のブラッシュアップを行った。また、道の駅いわて北三陸との連携についても取り組んだ。
2. 来館者数は回復しているが、Covid-19が5類感染症へ移行となったこともあり、今後は予定しているR6地域協働研究（ステージⅡ）でその中身について精査する必要がある。また、観光関連施設とのさらなる連携を図る。
3. 本研究の調査に御協力頂いた皆様に、深く御礼申し上げます。

左：来館者からの応援メッセージ 右：来館者からの提案と対応



道の駅いわて北三陸のトンネル通路の装飾



来館者の顧客エンゲージメントの整理

認知的エンゲージメント	・スタッフについて知っている ・展示の変化を把握している
行動的エンゲージメント	・スタッフに自ら声をかける ・頻繁に訪れるが年間パスポートを敢えて利用しない ・展示に関する提案をする ・SNSに水族館に関連した投稿をする ・知人への紹介により来館を促す
感情的エンゲージメント	・もぐらんぴあを応援したい ・スタッフを応援したい ・推しの生き物がいる